

重点的に取り組んだ活動・内容

項 目	実 践 状 況
<p>1 実践1 【人権メッセージの全校放送】</p>	<p>茨城県では「人権メッセージ」を募集している。この事業を活用し、児童に「自分の大切さとともに他の人の大切さをみとめること」について、道徳の時間や学級活動で授業を行い、その上で人権メッセージを書く活動を実施した。小規模校の強みを生かし、給食の時間の全校放送で全児童のメッセージを発表する「ありがとうの時間」を開設した。一人一人のメッセージには、身近な友人関係をはじめ、家庭でのことや世界に目を向けたものなど多様な内容が10月から1月にかけて発表され、なかには心を打つ体験を語ったものもあった。</p> <p>成果 「ありがとうの時間」が始まると児童は熱心に耳を傾け、メッセージの内容への拍手が各学級で自然に起こった。児童が普段考えていたことや思っていたことを率直に発表でき、聞き手の児童も感動や新たな気づきを得ることができた。学校全体で互いに思いやりながら関わり合おうとする習慣を作ることができた。</p> <p>課題 全校児童に発表するため、メッセージの内容に配慮した。発表されたくないという児童のメッセージは発表を控えた。人権に関する児童の体験は幅広く一人一人様々であり、きめ細かく児童の内面を把握するような日頃からの人権教育・教育相談を深めたい。</p>
<p>2 実践2 【JRC フォーラムの実施】</p>	<p>令和6年度仲町小青少年赤十字を発足させ、4学年以上の児童に呼びかけ、各クラスごとに結団式を行った。代表として8名の児童を選出し、リーダーとして活動させた。リーダーには日本赤十字社発刊のガイドブックで、青少年赤十字の意義や活動について学習させた。そして、リーダーを中心にフォーラムを実施し、イラストの募集・展示を行った。児童達は青少年赤十字のキャラクターである「ハートラ」などをかいた。</p> <p>成果 代表となった8名の児童はガイドブックを熟読し、フォーラムの際には「デュナンの考えに沿ってみんなで思いやりをもちましよう」「戦争は恐ろしいことです」などと全校児童に呼びかけることができた。児童達はピンバッジを大切に身に着け、青少年赤十字の一員として自覚をもち、人や社会の役に立とうとする気持ちをもつことができた。</p> <p>課題 児童のJRC活動は、児童の視野を広げ、困っている人や心身が傷ついている人への思いやりの心を育てられる。しかし、JRC活動は本校においては既存の教育計画に含まれていない。JRC活動を人権教育で活かすために、教育課程の中で位置付けをどのように設定するか、活動の時間の確保と指導内容をどのように工夫するかが課題として考えられる。</p>